

第17回芸術祭参加

安川加寿子

ピアノ独奏

日本人作品の夕べ

1962/11月26日(月) 6.30

第一生命ホール

第17回芸術祭参加

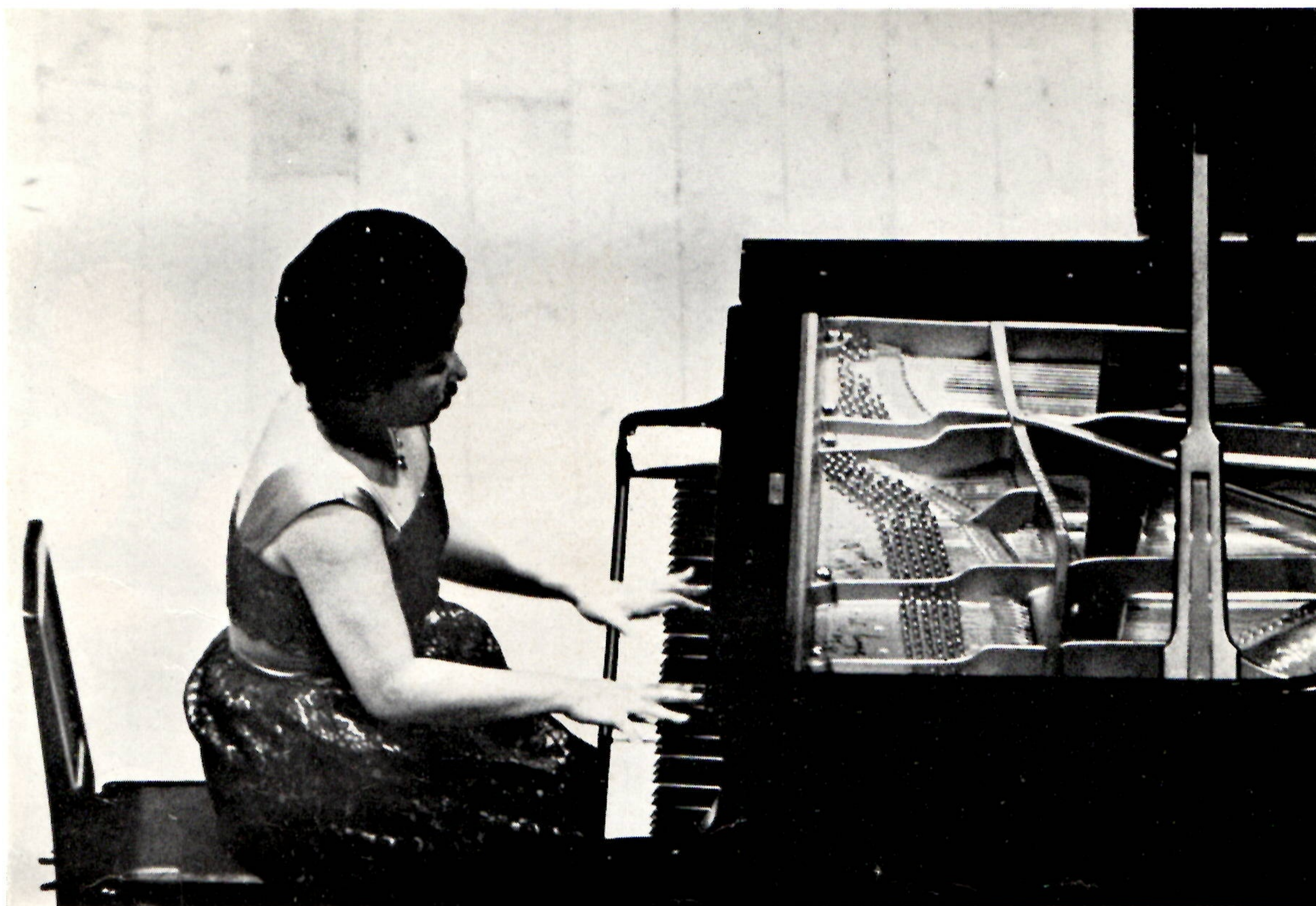
安川加寿子

ピアノ独奏

日本人作品の夕べ

1962/11月26日(月) 6.30

第一生命ホール



安川加寿子 “日本人作品のリサイタル” の記録

第一回 1950年6月8日 日比谷公会堂

主催 毎日新聞社

早坂文雄	3つの挽歌
宅孝二	ソナチネ
尾高尙忠	ソナチネ
乾春雄	ペルソナ
高田三郎	プレリュード 2曲
林光	ロンド

第二回 1951年12月11日 YWCAホール

主催 毎日新聞社

寺島尙彦	ソナチネ
柏木敏夫	奥の細道によるパラフレーズ ・ファンタスク
諸井誠	ソナタ op. 3
外山雄三	バーレッタ
一柳慧	ラブソディ
宅孝二	3つの即興曲
尾高尙忠	ソナチネ

第三回 1952年12月16日 第一生命ホール

主催 毎日新聞社

「現代フランスと日本人作品の夕」	
オネーゲル	バッハの名による前奏曲、詠 敍唱、小遁走曲
中田喜直	時計
デュティユー	ソナタ

山本直忠

宅孝二

モンブラン

小音詩集

プーランクのテーマによる変
奏曲

歌と諺

第四回 1954年7月7日 ヤマハホール

主催 毎日新聞社

「現代フランスと日本人作品の夕」

平尾貴四男	ソナタ
プーランク	変奏的主题
篠原真	ロンド
池内友次郎	ソナチネ
ジャン・ガロン	音色の練習のための即興曲
ラザール・レヴィ	舟唄
小倉朗	2台のピアノのための舞踊組 曲 (ピアノ高良芳枝と共に)

第五回 1958年2月5日 第一生命ホール

主催 深新会

清水陽子	ソナタ
清原博	プレリュードとフーガ
加藤徹	ピアノ小品集より
穴戸睦郎	3つの踊り
原和子	ソナチネ
湯山昭	“夢の城” 全曲
池内友次郎	“アン・ビース” 連弾曲 (ピアノ金沢桂子と共に)

曲 目 解 説

I ピアノ ソナチネ作品 13

尾 高 尚 忠

日響の指揮者として活躍した故尾高尚忠氏の作品

作曲者がウィーンより帰国して後、最初にかかれた作品であり、夫人に献呈されている。主なピアノ独奏曲としてはこのほか、「日本組曲」「三つの肖像画」等があるが、標題を持たぬ純器楽曲としてはこの曲があるだけである。

この作品は日本人の手になる数少ない本格的なピアノ曲の一つでありヨーロッパのためにもられた日本の銘酒のふくいくたる香は、いまでもわれわれをさそわずにはおかない。

第1章アレグレット・モデラート

淡々とした第一主題と、やゝ熱情的第二主題とで構成された典型的なソナタ形式。全曲中もつともすぐれた部分といえよう。

第2楽章は一種の間奏曲である。コール・アングレか、サキソフオンを思わせる如きメロデーによる前奏ののち、作曲者が「香港の夕暮れのように」といつたアルペジオによる美しい部分が出る。一たん長調になるがすぐ短調にもどり、やがて最初のメロディがくりかえされて終る。

終曲はA・B・Aという形式をもつたアレグロ・ヴィヴァーチェである。

(此の解説林光一尾高氏の愛弟子)

II ピアノ ソナタ

平 尾 貴 四 男

この曲は、作曲者(1907~1953)の41才のとき、つまり1948年の作品である。この曲について、作曲者は次のように記している。

“技術的には前年のヴァイオリン・ソナタの行き方を更におしすすめ、五度和声と三度和声の接触点に新しい境地を開拓したものである。しかし、その音楽の背後にあるものは、戦後のきびしい生活の矛盾相剋や、社会的な不安苦悩である。殊に第1楽章の重々しい響きにその影が濃く現われている。”

曲は、三つの楽章からなり、激しい感情をこめながらも、抒情性をも帯びている。

第1楽章 レントの短い序奏ではじまる。それから突然アレグロ・モルトになり、あえぐような第1主題が現われる。序奏とこの主題とは、音型的な関連がある。第2主題は、極めて旋律的であり、女性的な魅力さえもある。しかし、これは永続きはしない。展開は、第1主題の処理にはじまり、やがて第2主題も扱う。再示部は、公式的であり、二つの主題を順次再現させる。それから短かい結尾があつて、疲れはてたようにこの楽章は結ばれる。

第2楽章 静かな、ゆるやかなレントの曲である。形は3部形式といえよう。中間部はアンダンティーノになり、それから少々あせり気味になる。そしてはじめの主題の姿をほのめかし、ついに第3部に進んでゆく。

第3楽章 無窮動風な音型の上に、まず第1主題を乗せてはじまる。第2主題は速度を落して、細かい音型に乗つて、大きな歩みで現われる。そして、この楽章は、この二つの主題によるソナタ形式をとっている。再示部の後の結尾は、華々しい効果を出す。

III a) ピアノ ソナチネ 第3番

奥 村 一

私はピアノまたはその他の独奏楽器の小品を書くときには、「ソナチネ」の型式を好んで用います。標題を付した「組曲」等は、純粋な音そのものの構成によつて、作曲者の思想、感情等を表現するものではなく、他の要素すなわち文学、絵画、瞬間的印象または単なるアイディア等に支配されるので、モチーフの設定、テーマの発展、対立等の音楽的な作曲技法から遊離してしまうのです。特にオーケストレーションという色彩による変化に頼れない場合には、聴く人の心をとられることは非常に困難です。

この「ピアノソナチネ第3番」は、今年(1961年)の3月から書き初め、5月1日に完成したものです。曲は3楽章からなっています。全曲を支配するハーモニーは大体統一され、曲首に現われる五声音

階（日本的というより東洋的、中国的といった方がよいかも知れない。）から出発したものです。

この五声音階を拍子変化、リズム変化で展開させ、ゆるやかな第2主題とからませたものが第1楽章です。第2楽章は低音部の日本的なリズムの動きを中心にした緩徐楽章です。終楽章は五声音階をピアノスティックに発展させたもので、内容よりも外面的効果をねらったものです。

b) ピアノ ソナチネ 第4番

私は昨年（1961年）5月1日に「ピアノのためのソナチネ第3番」を書きあげた。

これは日本音階「陽旋法」によるものである。続いて6月3日には「陰旋法」によつてリズムカルな小品「おどり」を書いた。この2つの作品で日本的な要素と西欧的な要素との連繋が大体成功したので早速「ピアノの為のソナチネ第4番」にとりかゝった。この曲では、前作品同様日本的な要素をより多く前面に押し出しながらテーマの発展、技法第をより複雑に取扱つていくが、そのため第1楽章では日本的要素よりも伝統的なソナタ形式が強く表面にあらわれている。又前作品と対照的なものとする目的で「3番ソナチネ」の主題がリズムカルで速いテンポを要求したのに対し、この曲の主題では柔和な美しいタッチを全体に漲らせた。第2、第3楽章ではメロディもリズムも日本的要素をより表面に押し出し、様式的には極度の単純化を図った次第である。完成は1961年7月7日である。

（解説 奥村一）

Ⅳ ピアノ ソナタ

端 山 貢 明

第1楽章 休みなく続く16分音符の起伏が事実上音楽を形造る。極端な音量の変化と増減する音群の波にのる長さの不定な二小節を単位とする断片。

調的でない音の指向性を求めるために音素材を単純化し、特殊な旋法を用いた事により耳の受ける一種の硬さ。

ほぼ中央の連続する和音の部分にも書かれた和音群の背後にある書かれていない16分音符の動き。

第2楽章 繰り返される簡単な音形を軸に三声の対位法。いくつかの旋法をさわることによりこの音形の持つ一種のミステーション。

第3楽章 第1、第2楽章と同じ方法を同じ素材の異つた局面に旋す。

曲全体は他の曲と同じに幾つかの要素を具えた一つの単位を自発的に変容させる方法によつて居るが、この曲の場合それが完全に厳格に行われて居る訳ではない。即ちこの曲をこの曲であらしめたファンタジーが他の要素の介入を許した訳なのだが、こゝではそれがよい効果をもたらしていると思う。私としては大変愛しているこの曲が今度ピアノを通じて音楽の深さを色々お教え下さつた恩師である安川先生により演奏されることはこの上ない喜びである。

（解説 端山貢明）

Ⅴ ピアノ ソナタ

矢 代 秋 雄

この曲は倉敷の大原美術館の委嘱により、1960年夏に作曲され、その年の11月7日同館の大ギャラリーで行われた大原美術館創立30周年記念音楽会に於いて山岡優子さんによつて初演された。

グレコの＜受胎告知＞をはじめ、セザンヌ、ルノワール、ゴッコン、モローなどの数々の名画や、ブールデルの＜ベートーヴェン像＞などを背景にして行われたこの初演は、私にとって忘れがたいものであつた。1961年夏に、第2楽章の一部分と第3楽章の大部分を書き改め、旧稿の意に満たなかつた箇所を一新した。

第1楽章は、極めて特異なソナタ形式によつて居る。こゝで私は私なりの方法でソナタ形式のエッセンスだけを凝縮させて見たつもりである。もつともソナタ形式のミイラが出来てしまつたかも知れないが……。

第2楽章は、トッカータ

第3楽章は、主題とその自由な変奏よりなる。この主題は、云うまでもなく第1楽章の第2主題によつて居る。

この曲を書くにあつて、私にとってピアノソナタの理想像であるところのベートーヴェンの「ピアノソナタ 作品109」から精神的影響を受けたことを告白しておこう

（解説 矢代秋雄）

PROGRAM

I Piano Sonatina Op. 13 HISATADA OTAKA

Allegretto moderato
Intermezzo
Allegro Vivace

II Piano Sonata KISHIO HIRAO

Poco lento — Allegro molto
Lento
Allegro assai

III a) Piano Sonatina No. 3 HAJIME OKUMURA

Allegro molto
Lento
Presto

b) Piano Sonatina No. 4 //

Moderato
Lento
Tempo giusto — Allegro ma non troppo

IV Piano Sonata KŌMEI HAYAMA

Allegro assai
Lento
Allegro molto

V Piano Sonata AKIO YASHIRO

Agitato
Toccata — Allegro ritmico
Thema and Variations — Lento

I ピアノ ソナチネ 作品 13 尾 高 尚 忠

やゝ速く
間 奏 曲
生々として頗る速く

II ピアノ ソナタ 平 尾 貴 四 男

やゝゆるやかに一極めて速く
ゆるやかに
急 速 に

III a) ピアノ ソナチネ 第3番 奥 村 一

極めて速く
ゆるやかに
極めて速く

b) ピアノ ソナチネ 第4番 //

中くらいの速さで
ゆるやかに
正確な速さで一速く，しかしあまり急がず

IV ピアノ ソナタ 端 山 貢 明

非常に速く
ゆるやかに
極めて速く

V ピアノ ソナタ 矢 代 秋 雄

激 し て
トッカーター速く，リトミーコに
主題と変奏—ゆるやかに

(全 曲 芸 術 祭 参 加)

Y A M A H A

音楽の美しさと格調のために

ヤマハピアノ



日本楽器製造株式会社
東京支店 銀座7丁目1 TEL(571)9151・9281